



研究用試薬

## ヒストファイン

第一抗体

D2-40モノクローナル抗体(ヒストステイナー用)  
(動物種: マウス)

包装: 60テスト(12mL) Code: 713451

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性および抗原分布: O型シアロ糖タンパク質と特異的に反応する。O型シアロ糖タンパク質はヒトリンパ管内皮、胎児精巣、精巣生殖細胞由来の腫瘍中に存在する分子量40kDaの糖タンパク質である。正常組織ではリンパ管内皮に強い染色がみられるが、血管内皮にはみられない。腫瘍では精巣性胚細胞腫瘍<sup>1)</sup>、リンパ管腫<sup>2)</sup>、カポジ肉腫<sup>3,8,9,12)</sup>、神経鞘腫<sup>8)</sup>、平滑筋肉腫<sup>8)</sup>、血管肉腫の一部<sup>9)</sup>、悪性中皮腫<sup>15)</sup>などに染色がみられる。リンパ管浸潤や増殖などが関与している腫瘍組織中のリンパ管の同定に役立つ<sup>2,10,11)</sup>。
- クローン名: D2-40
- 抗体のサブクラス: IgG1
- 免疫原: ヒト未分化胚細胞腫組織
- 製法: ハイブリドーマの培養上清から得ている。

## 1. 内容

第一抗体・・・抗ヒトリンパ管内皮抗原モノクローナル抗体 D2-40 (動物種: マウス)。  
液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と、0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)中にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

## 2. 使用目的

組織・細胞中のリンパ管内皮抗原の染色。

## 3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)として10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理が必要である(裏面参照)。

## 4. 使用方法

- 1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。
- 2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

## 5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

## 6. 貯法

2-8℃保存。

## 7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染を引き起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	D2-40モノクローナル抗体
試薬略称(10文字)	D2-40-MM
バーコード	D2-40-MM
時間(分)	30

## 8. 主要文献

- (1) Marks A., et al : British Journal of Cancer 80 : 569-578, 1999
- (2) Kahn HJ., et al : Laboratory Investigation 82 : 1255-1257, 2002
- (3) Kahn HJ., et al : Modern Pathology 15 : 434-440, 2002
- (4) Fogt F., et al : International Journal of Molecular Medicine 13 : 211-214, 2004
- (5) Fogt F., et al : International Journal of Molecular Medicine 13 : 681-683, 2004
- (6) Franke FE., et al : J Cutan Pathol 31 : 362-367, 2004
- (7) Bar-Shira Maymon B., et al : Fertility and Sterility 81 : 1391-1394, 2004
- (8) Bellucci KSW., et al : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [27] : 2004
- (9) Fukunaga M. : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [42] : 2004
- (10) Kahn HJ., et al : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [136] : 2004
- (11) Giorgadze T., et al : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [380] : 2004
- (12) Pantanowitz L., et al : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [400] : 2004
- (13) Mitsuhashi T., et al : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [517] : 2004
- (14) Acs G., et al : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [790] : 2004
- (15) Chu AY., et al : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [1412] : 2004
- (16) Choi WWL., et al : USCAP\* 2004 Annual Meeting Abstracts [1490] : 2004

\* United States and Canadian Academy of Pathology

### ■ 研究用としてのみ使用すること。

#### ■ 切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化) : マイクロウェーブ(MW(500W))処理
  - ①緩衝液(下記記載)をバットに入れ、MW照射し沸騰させる。
  - ②沸騰した緩衝液に切片を浸し、MWを5分間照射する。
  - ③再度、MWを5分間照射する。必要であれば、さらにもう一回、MWを5分間照射する。  
※MW照射による沸騰で緩衝液は蒸発する。蒸発により緩衝液が減少し、切片の乾燥が危惧される場合は、ピーカー等であらかじめ沸騰させておいた精製水を減少した分だけ加えてからMW照射を行うこと。  
※MW照射を1回(照射時間10-15分間程度)のみで行っても良い。
  - ④バットごと切片を常温(15-25℃)に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。  
※MW処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
  - ⑤スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

#### ・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液 9mL+B液 41mL+精製水 450mL

A液 : 0.1M クエン酸水溶液

クエン酸一水和物( $C_6H_8O_7 \cdot H_2O$ )2.1g/精製水 100mL

B液 : 0.1M クエン酸ナトリウム水溶液

クエン酸三ナトリウム二水和物( $C_6H_5O_7Na_3 \cdot 2H_2O$ )14.7g/精製水 500mL

A液、B液は常温で保存可能である。ここから必要な時に調製する。